

お酒の楽しみ

AtoZ

vol.03



にいがた美醸 主宰
村山 和恵

PROFILE

村山 和恵 (むらやま かずえ)

秋田生まれ新潟育ち。短大で教員を務めるかたわら、日本酒好きなことが高じて資格を取得し、講習会やイベント、執筆に関わるほか、日本酒の楽しさを多くの女性と分かち合いたいとの思いから、2009年から女性のための日本酒コミュニティ「にいがた美醸」を主宰している。2013年よりにいがた観光特使、2014年には女性としては新潟県初の「酒サムライ」に叙任。2020年に小笠原流礼法の師範を取得するなど、活動の幅を広げている。

にいがた美醸ウェブサイト

<http://www.niigatabijo.com/>

村山和恵ブログ～酒サムライ・かずえの日本酒一合一会

<https://ameblo.jp/love-ricewine/>

飲みすぎたのは ワタシのせいよ

失敗が教えてくれるもの

「昨晩会計を済ませたのか覚えていない」ことや、「店を出てからどうやって帰ったのか覚えていないが、無事帰宅し、シャワーを浴び、寝間着に着替えて寝ていた」などは「酒飲みあるある」なので、思い当たる方は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、お酒がお好きな方であれば、大なり小なり「失敗」の経験があるかと思いますが、私もその一人です。しかし、これまで失敗しながらも怪我や事故につながる事が無かったのは幸いなことですし、何よりも周囲の方々の優しさに助けられていることは言うまでもありません。この場をお借りしてお詫びと御礼を申し上げたいと思います。今回は恥を忍んで、私の人生の中で昔々のその昔に起こった2大事件のご紹介を含めて、お酒での失敗を考えて参りたいと思います。

男性の革靴事件

友人宅で「宅飲み」をし、結構な時間になったので一足先に抜け、タクシーで帰宅しました。翌朝痛む頭を抱えながら起床し、トイレに行く途中、玄関に見慣れない靴があり、違和感を覚えました。よく見ると、なんと一人暮らしをしていた私の家の玄関に、男性の革靴があるではないですか。ほどなくして友人から電話があり応答すると、友人は開口一番



ハシゴ酒途中に撮影したと思われる写真

「あんた、何履いて帰ったん」と言うのです。見慣れない靴の特徴を話したところ、どうやら私は友人のお父さんの靴を履いてタクシーに乗ってしまったようなのです。後日、靴の返却とともにお詫びをし、盛大に笑われてしまいました。

2D眼鏡事件

長岡で友達何人かと同席した飲み会の帰り、信越線に乗り終点の新潟駅まで熟睡をしまい、車掌さんに起こされました。そこまでは良かったのですが、新潟駅前からタクシーで帰宅後、洗面所の鏡を



一升瓶の迫力に圧倒され全種類飲みたくなった瞬間の写真

見て驚愕しました。なんと、私の顔面にマジックで立派な黒縁眼鏡が描かれているではないですか。おぼろげな記憶を辿ったところ、同席したメンバーが悪ノリをして何らかの罰ゲームといって顔に落書きをし始め、私もそのターゲットとなったのです。しかし、帰るときにはそのことをすっかり忘れ、そのまま帰宅してしまったというものです。これを、私の中では「2D眼鏡事件」と呼んでおります。車掌さんも、そんな乗客を起こすのは嫌だったと思います。

◆□ なにかの「せい」ではない

「日本酒を飲むと酔っぱらうから」というセリフを過去に何度も耳にしたことがありましたし、そんな言葉とともに、日本酒を遠慮される方にも多く出会って参りました。私自身、日本酒を楽しんで20年以上が経過する中で、楽しいことが大多数ですが、飲み過ぎて辛かったことも経験しました。その中で考えたことは、お酒の席での失敗は「お酒のせいではない」ということですし、ましてや「一緒に飲んだ人のせいでもない」ということです。これまでの経験で、どんな飲み方をした時に失敗するかを振り返ってみたところ（記憶がおぼろげで、振り返れなかったこともあります）、いくつかの傾向があることが理解できました。理解できましたが、同じ轍を踏むこともありました…。それは今後の記事で関連する事柄を述べたいと思いますが、結論を申し上げますと失敗や辛い思いをした原因を作っているのは紛れもなく飲み手である自分だったのです。「チャンポンすると悪酔いする」ということもよく耳にしま

すが、その原因の1つとしては飲み手の「行動」も関係しています。例えばビールで乾杯をし、食べながら日本酒やワインを飲み、お腹が満たされたら最終的にウイスキーをロックで飲む。といったようなことです。これが示すものはチャンポンする人は、どんどんアルコール度数の高いものに手が伸びる傾向があるということです。「酒は百薬の長」という言葉がありますが、薬にするのも毒にするのも飲み手次第ということを胸に刻みたいと思います。

◆□ 失敗から導き出されたこと

失敗はしないに越したことはありませんが、失敗しなければ考えなかったこともあると思います。ここでは、私にとって現時点で導き出された2つのことをご紹介し、結びとさせていただきます。

まず1つ目は、「お酒との付き合いは人付き合いのようである」ということです。人付き合いの中で、相手と自分との距離が重要であるように、日本酒（だけに限ったことではなく、他のアルコール類も同様と思いますが）も、そうであると感じています。調子に乗って距離をつめすぎると傷ついたり傷つけたり、痛い目に合うこともあります。かといって、あまり距離を感じるようであっても寂しいものがあります。

2つ目は、「お酒は自分の状態を教えてくれる」ということです。日々、私たちの心や身体は揺らいでおり、コンディションは一定ではないと思いますが、それらを感じさせてくれるのは、お酒という存在であると思います。その日の心のモードが増幅されますので、自分がどういった気持ちで一日を過ごしたのか振り返ることができますし、酔いが早く回るようなときは、身体が疲れているのかな?などと考えます。

つまり、お酒は自分の心や身体のパロメーターなのです。



失敗しても離れられないと思う瞬間の写真